



# JAC北九だより NO.21

社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行: 社団法人日本山岳会北九州支部  
事務局: 北九州市門司区新原町 12-27  
関口 興 洋 方  
TEL・FAX 自宅 093-382-6436  
携帯 090-8919-6776  
発行人: 秦 野 一 彦  
編集人: 関口興洋・伊藤久次郎



**2005年**

新年のご挨拶

日本山岳会北九州支部長

秦 野 一 彦



日本山岳会北九州支部の皆様、新年おめでとうございます。ご家族の方共々お健やかに新しい年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

また、昨年中は皆様方から大変暖かいご支援、ご協力を戴きまして、ここにあらためて厚くお礼申し上げます。

さて、日本山岳会創立 100 周年を迎えての記念行事の一つであります中央分水嶺踏査登山は、山口県内の作業は特に困難を極めておりますが地元会員の献身的な努力によって成果をあげております。

平成 16 年度日本山岳会年次晩餐会には当支部から 18 名の方が参加され、信濃支部と並んで最多の人数でした。年次晩餐会参加と合わせての毎年の山行計画は、今回は富士山がよく見えることで知られている雲取山登山が計画され、幸い天気もよく快適な山行だったと聞いております。

また、支部の年末忘年会（忘年パーティ 12 月 11 日）が初めて下関市内で開催されました。地元会員のお骨折り

により 47 名の参加を得て、楽しい雰囲気で大変盛り上がり、会員間の親睦がより深められたことと存じます。

本年は日本山岳会創立 100 周年に当たり、また、わが支部は創立 5 周年になります。5 月 28 日（土）には、英彦山のアドベンチャー森の家において、5 周年を記念して日本山岳会平山会長の参加を仰ぎ盛大なパーティを開催する予定であります。会員皆様全員の参加で意義深いものとして成功させたいと願っております。

創立 100 周年行事終了後は本来の支部活動を主体にし、山の自然保護、環境保全指導、岩登り、雪上の技術、沢登りや冬季合宿など会員皆様方の要望に応じられるよう、種々の研究会を充実させていきたいと思っております。支部が掲げる目標の達成に向けて果敢に挑戦してまいりますようお願いいたします。

本年の皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

2005 年 1 月 元旦

<事務局からのお知らせ>

## 100 周年記念式典について

総合式典は 10 月 15 日（土）東京 新高輪プリンスホテル  
九州ブロック記念式典は 7 月 16 日（土）宮崎 えびの高原荘  
北九州支部創立 5 周年記念は 5 月 28 日（土）英彦山森の家

### 多くの会員の参加を！

日本山岳会の創立 100 周年を記念する行事の中心をなす記念式典は、全国の会員に広く参加を求める総合式典と全国の支部を 8 つのブロックに分けて開催する 2 つの式典が計画されています。

総合式典は 2005 年 10 月 15 日（土）、東京の新高輪プリンスホテルで開催されますが、九州ブロックの記念式典は福岡、北九州、東九州、熊本、宮崎の 5 支部が合同して、次の通り開催されます。なお、宮崎支部創立 20 周年にもあたりますので、宮崎支部が世話役を務めます。

期日：2005 年 7 月 16 日（土）、17 日（日）  
場所：えびの高原荘

### 支部創立 5 周年記念

期日：2005 年 5 月 28 日（土）、29 日（日）  
場所：英彦山 アドベンチャーセンター森の家

28 日 14:00 ～ 日本山岳会会長講演。17:00 ～ 宴会。  
19:00 ～ 英彦山山開き前夜祭参加。29 日英彦山登山と山頂での山開き神事に参列。登山は 3 コースに分けて山頂で合流予定。

出来るだけ多くの会員の参加をお願いいたく、予めスケジュールに組み入れてください。

## 平成16年度年次晩餐会

北九州支部から18人参加 信濃支部に次いで最多

記念山行（軽井沢 碓氷峠）にも3人参加



左から7人目の平山会長を囲んで記念撮影（晩餐会会場）

みが伝わってくる様で、私も「本当に日本山岳会員になったんだ」と改めて感激が心の底から湧いてくる思いでした。

最初はこの会への出席に躊躇していただけになおさらでした。又、当支部からの出席は信濃支部の19名に次いで18名（うち新入会員8名）と、他支部は数名の所が多い中で突出して多かった事もうれしく思う一つでした。それは日頃よりの当支部の活発な活動の現れと思うからです。私も今の感激を胸に、今後の山行を楽しむつもりです。そして、本年度も晩餐会に出席したいものと思っております。

### 年次晩餐会参加者

3173 吉村健児 4325 秦野 一彦  
11427 日向祥剛 11977 溝部 忠増  
11990 原 広美 13499 伊藤久次郎  
13522 山崎和子 13541 高島 拓生  
13643 関口興洋 13722 藤田 傳  
13986 室津健次 13987 宮城 尚志  
13991 中村昭彦 13992 山田 武史  
13994 楠田和彦 14045 池田 暁彦  
14051 三木靖子 14081 塩屋 薫

### 平成16年度年次晩餐会に出席して

No. 13992 山田 武史

頭書の会が平成16年12月4日、東京品川の新高輪プリンスホテルで、18時より開催され、私も新入会員として初出席しました。

当日の出席者は、東京本部及び全

国25支部から約470名との事で大変な人数の山男、山女の集いに緊張と興奮を覚え、又見知らねど立派な先輩諸氏の姿や顔、話題に接していると日本山岳会の歴史や重

### 年次晩餐会記念懇親山行に参加して

No. 13987 宮城 尚志



記念懇親山行に参加した会員45人

年次晩餐会翌日の記念懇親山行は、JAC100周年記念事業「中央分水嶺踏査登山」の一部で長野県と群馬県の県境でもある碓氷峠コースで実施されました。

ここは東京駅から長野新幹線で約1時間20分の長野県軽井沢駅からほど近い場所に位置します。

参加者は全員で45名、北九州支部からは田川の伊藤さん、門司の池田さん、私の3人でした。

前夜の暴風雨とはうって変わって台風一過のような快晴の朝、噴煙を上げる浅間山を目の前に望む軽井沢駅前に集合すると、そこには何と昨

夜の晩餐会の壇上で拝見した平山会長の姿があり、9時40分大感激の出發となりました。

約20分の国道歩きの後、登山道のはじまりである碓氷峠登り口から、真っ青な空のもと目の前には東側の風景が開け、のこぎりの歯の様な特徴ある妙義山をはじめ群馬の山々のパノラマが広がりました。そして冬枯れした広葉樹林のふかふかの落ち葉を踏みしめての約1時間40分の行程は、横浜女性の北海道単独行の話や熊本男性の写真の話、また地元男性の植物の話等を聞きながらあつと

いう間のトレッキングでした。

11時40分ごろ目的地である旧碓氷峠見晴台に到着、アツアツの豚汁が振る舞われ、絶景を望みながらの昼食はとても美味しく、食後は北海道支部の山の歌の大合唱に参加して盛り上がり、最後は平山会長を囲み全員で記念写真を撮って解散となり、とても有意義な山行となりました。

また、伊藤さんの声かけにより平山会長から5月に英彦山山開きに併せて開催される「北九州支部創立5周年記念集会」の参加を大変楽しみにしている旨の言葉をいただきました。



見晴台にて 左から池田、伊藤、平山会長、宮城

帰路は軽井沢の別荘地帯の遊歩道を下り、洒落たカフェテリアや美術館、土産物店等が立ち並ぶ軽井沢銀座と呼ばれる街並みを通り、駅までの散策を楽しみました。

## 山行報告

### 日本百名山「雲取山」山行記

No. 13994 楠 田 和 彦

日程：2004.12.1~3

行程：12/1(水) 16:50 下関発・寝台特急「あさかぜ」乗車。

12/2(木) 07:33 東京着、07:42 発(中央線) ~ 09:10 青梅着、09:31 発 ~ 10:05 奥多摩着、10:40 発(バス) ~ 11:15 鴨沢着→小袖乗越→堂所→七ッ石山→雲取山→雲取山荘

12/3(金) 雲取山荘→雲取山→七ッ石山→高丸山→鷹ノ巣山→稲村岩→巳ノ戸沢→東日原バス停→奥多摩→東京(ふくおか会館)

メンバー：CL 13643 関口興洋

SL 11990 原 広美 13541 高島拓生  
13722 藤田 傳 13986 室津健次  
13994 楠田和彦 14046 中村昭彦  
14045 池田暁彦 14051 三木靖子  
14081 塩屋 薫 北九359 八木國子  
計11人

## 山行記

### \*\*「あさかぜ」 ラウンジカーを独占\*\*

12月1日、一行は、下関駅発寝台特急「あさかぜ」の出發時刻を見計らいホームに集合しました。馴染みの面々に逢いホッとして挨拶をかわすのも束の間、今晚最も気がかりであった「晩飯の調達」についてどう

されたかという問い合わせからのスタートです。

寝台特急はラウンジカーを連結しているとは言え、今世では売店は閉店しているとの前情報を受けていたための心配事でした。

アルコール類、お茶に弁当は、ホームの売店で買い占め列車入りを待つ。関口CLから発信された“12月雲取山登山の最終ご案内”にありました文書内容が頭をよぎる。『乗車と同時に、夕食・宴会用のラウンジカーの一番広いスペースを確保せよ』『お酒はほどほどに・・・監視人が不在で大丈夫かなー』。幸い乗客は少なくラウンジカーの陣取りはスナナリといきました。定刻 16:50 出發。下関の街並みを車窓に映しているラウンジカーの卓上では定番通りの酒盛りの始まりでした。

車内では久方ぶりに味わうビール、酒、焼酎、高級ウイスキー何でもござれと整い、はたまた原SLからは、先輩西村さんの差し入れ、“酎”とツマミ、山友からの差し入れという「特別な地魚お造り」が出されると最高の御膳立てとなりました。

酒肴のよさと適度の車体の揺れに

アルコールは五臓六腑にしみわたる。メンバーの呼吸も合って、自己紹介では目元、口元も滑らかに盛り上がりました。

20:00 頃、車内アナウンスは、広島駅の着発を伝えている。ラウンジでのお開き是何時であったかは定かではないが岡山を過ぎた頃には各自が寝場所へ移動し就寝。

夜明けは、熱海を過ぎた頃か再びラウンジカーが賑やかになる。目覚めのコーヒーには琥珀色のお友達を混入する。和やかな中に、時代の流れに抹消されていくという「あさかぜ」運行廃止の話題となる。今回メンバーの貸切同然であった寝台特急列車へのお礼と旅情の良さを惜しみ、その余韻を残しながら東京駅に到着しました。

### \*\*奥多摩湖は絵画模様 とお猿の歓迎付き\*\*

12月2日、07:35 お出迎えの関口CLと合流。奥多摩へ向けての気持ち切り替え、食料の買い出しや、JRの乗換に奮闘する。

10:05 快晴の暖かいなか、奥多摩駅に降り立つことができました。予定は未定とばかりタクシーの利用で一気に登山口の小袖乗越まで行く予定が台数の不足からバス利用を余儀なくされました。バスの車窓からは、緑と紅葉した木々が奥多摩湖の水面に映えて大きな空間のキャンパスに

描いた絵画そのものを実感、魅了してくれました。

11:30 湖面をバックに準備体操の後、鴨沢を出発。小袖乗越へと向かう。里山道に入ると“猿”の群れに出会う。バス利用のおかげで自然の絵巻とお猿の歓迎を受ける「おまけ」付きの幸運に恵まれました。

### ＊＊山の深さは長丁場 されど富士山に感激＊＊

12:30 小袖乗越での昼食、休憩を終えいざ出発。車道から左、登山道へ取り付き植林の中、山道を進む。1:25000 の地図上では左斜面に小袖山△ 1054.0、途中休憩予定の堂所までは、ゆるやかな登坂道なれど所要タイム 1:25 とある。奥多摩の山の深さは行けども行けどもの道のりでペース配分に留意しながらも約 30 分の遅れを取っていました。

堂所を過ぎ、セツ石小屋を目指す。登坂が急に増し高度を稼ぐ「ヤー富士山だ」と歓声が上がる。

15:22 セツ石小屋到着。小屋の住人は不在でしたけれども、水の補給や空腹を補う休憩を取りました。富士山が眺望できて長丁場の歩行疲れも吹っ飛びました。

15:37 セツ石山△ 1737.3 着。石尾根に到達したことになる。地図上この西端が雲取山となっており展望がよいと記してある。山頂前には大きな針葉樹のモミの木が遠くの富士山と調和よく重なり、心ゆくまで堪能できました。

### ＊＊石尾根西端の雲取山 は暗く遠かった＊＊

当初の計画予定から 1:30 の遅れは覚悟していましたが、日没は 16:32。タイムリミットまで 1 時間を割っている。雲取山までの地図上の所要タイムを読めば 1:30 はかかる。

ブナ坂を登り、防火帯の中のヘリポート、奥多摩小屋から小雲取山へ向かう途中から、関口 C L は、小休止時ヘッドランプ着装備を指示。照明を集中させるため歩行幅を短めにパーティの間隔を縮める。

ヘッドランプ着装によりペースはガクンと半分以下まで落ちる。全員

で励まし合いながらなんとか前方に雲取山を捕らえることができました。

雲取山避難小屋からか、ライト信号を確認。安堵感のなか、石尾根西端最後の急坂、石コロ道をやっとの思いで踏破する。遠かったなー！！

18:10 雲取山避難小屋着。ここでは泊まりパーティと単独行女性に出会う。同女性は、道に迷ってしまい避難小屋まで這い上がってきたことが判明、軽装備の女性、一步間違えば遭難の恐れがあった模様。事情により山荘まで同行させることにしました。

雲取山荘へ急降下する。途中、素晴らしい東京の夜景が目に入る。夜景は夜道山行の恩恵か、だとしてみれば納得出来るものの、暗い坂道下るには明るい昼間の 3 倍の時間と体力を要する。関口 C L の沈着冷静な判断により、コースマーカーを探り当て下降をうまくリードされた。地図上所要タイム 20 分の下降は、約 1 時間を費やし、19:10 山荘着を無事果たしました。山荘のオーナー新井信太郎氏は、秩父夜祭のため不在でしたが、留守番の方から温かく歓迎していただきました。

装備を解き夕食会を前にオーナーからの差し入れビールで乾杯。オーナーと関口 C L に感謝しつつビールのノド越し良好なり。

消灯、21:00。暗闇の中、練炭炬燵に入りヘッドランプ着装備による「耐タロウ会」は盛大かつ有意義なものでした。

### ＊＊日本晴れの雲取山山頂は素晴らしかった＊＊

12 月 3 日、05:00 起床。日の出は厳粛でした。06:00 朝食。07:00 出発。留守番の方に写真のシャッター切りをお願いしての記念撮影はよい思い出となりました。

吐く息は白く、気温－5 度、快晴です。昨夜の急坂道、高度差約 190m の登りを定刻の 30 分で上がり、雲取山山頂に出ました。目の前の富士山に歓声があがり、ポツカリ浮かんだ光景は、昨夜の苦労を一度に消してしまいました。

山頂から眺める山また山、遠くは南アルプスの山なみ、日本晴れの日、自然が織りなす山容は、こうも素晴らしいものかと目にしっかり焼きつかせたものでした。

避難小屋まで降りて、朝のティータイム。原 S L や中村氏の着火されたガスヘッドに感謝。清々しい一時を過ごすことができました。サンキューーヤッホー！！

08:10 同小屋出発。石尾根西端をアップダウンしながら軽快にクリアしていく。奥多摩小屋を左に見る。携帯電話の電波が発信できる限定場所とか、ヘリポートを過ぎブナ坂を下る。

09:45 セツ石山着。振り返り歩いてきた道を辿れば雲取山の山容が一望でき、南の富士は何時までも容姿を見せたままである。記念撮影に夢中となる。

地図上のネット時間を確認する。小屋からの所要時間 1:30 と合っているペースでした。セツ石小屋分岐を直進。千本ツツジから山道を外れて尾根越しに高丸山△ 1733 を踏破。秩父多摩国立公園内の山道はよく整備され歩きやすい。再び同山道に入り日陰名栗峰の巻き道を選び、その出合いで昼食、休憩をとりました。正面には富士山がありました。

12:30 同所出発。巳ノ戸の大クビレから鷹ノ巣避難小屋前を通り、鷹ノ巣山を目指す。

13:00 鷹ノ巣山△ 1736.6 到着。快晴の山頂では記念撮影絶好のポイントとなりました。下山判断は、石尾根縦走（所要時間 3:30）か、稲村岩尾根の急坂を下山（所要時間 2:00）するかとなりました。地図上ネットと実情ペースを勘案、ネットに倍かけてみる。

石尾根縦走ではアップダウンが 2 回程ありそう。稲村岩尾根の急坂を降りるリスクを加えても下りが良いと大勢的であった。C L は、ヘッドランプ着装は避けたいとの判断から稲村岩尾根越え、東日原への下山を決断された。

13:10 原 S L を先頭に下山開始。途

中休憩 3、4 回。急坂を降りるリスクを和らげる。名称のとおり、稲村岩に到着しました。絶壁に近い道標を左に、九折の坂道を下り、巳ノ戸沢に出る。同沢を渡り、巳ノ戸橋から薄暗くなりかけましたが、山道に

沿って上り詰めると車道、中日原に位置する所に出ました。地元の方の助言で、これより東寄りへ 5 分の道のりを歩き、東日原バス発着場に 16:47 到着しました。同バス停ではパーティ全員の無事下山を祝い C L 機

転の調達ビールで乾杯。パーティの皆様ありがとうございました。

16:51 バスにて奥多摩駅へ、雲取山山行を完結しました。

## 雲取山 2017.7m 登山記録

No. 14081 塩 屋 薫

(事務局より～楠田氏の原稿とダブルので一部省略いたしました)

行程 平成 16 年 12 月 1 日下関発～2 日東京～青梅～奥多摩～鴨沢 (奥多摩湖の最奥)

参加者 11 名 平均年齢 68 歳

### 登山記録

12 月 2 日 快晴 無風 鴨沢標高 536m GPS 標高差 1481.7m 11:30 鴨沢発 駐在所横の細い道を登る、猿の歓迎を受ける。12:02 小袖乗越着、昼飯。12:30 出発、車道を辿り左の登山道に取り付き、植林の中の良く踏まれた道を進み 14:18 堂所、14:40 富士山が見え始める。15:22 セツ石小屋 (1,597m) にて水補給。15:37 セツ石山 (1,757.3m) 着。富士山の展望は最高。ブナ坂 (福智山の念仏坂に似ている) 防火帯の中のヘリポートを通り、奥多摩小屋～小雲取山～ 18:10 雲取山避難小屋着。東京の夜景が素晴らしい。単独行の女性を加え、暗くなっ

た急坂を下り 19:10 山荘着。所要時間 7 : 40 (休憩を含む)。山荘標高 1,831m。新築された山荘の設備は良く、練炭炬燵で良く眠れた。水洗トイレに四千万円かけたとか。収容 200 名。オーナーは新井信太郎氏 (JAC4367)。

12 月 3 日 快晴 無風 気温 - 5 度。6:00 食事、7:00 出発。急坂を約 190m 登り 7:30 雲取山着。富士山の眺望に歓声があがる。避難小屋でお茶、8:10 出発。小雲取山を左に見て進み 9:00 奥多摩小屋、9:47 セツ石山 (三等三角点)、11:03 高丸山、11:13 日陰名栗峰 (1,725m)、11:49 巻き道出合いで、正面に富士山を見ながら昼飯。12:30 出発、巳ノ戸大クビレを通り。12:33 鷹ノ巣避難小屋を右に見て登り、13:00 鷹ノ巣山着。13:10 左の稲村岩尾根の急坂を下り、稲村岩か

ら左に九折の急坂を下り、沢に出て左の植林を通り、巳ノ戸橋を渡り道なりに登り、車道に出て 16:47 東日原バス停着。全員無事下山、ご苦労様でした。37,000 歩。西東京バス 16:51 奥多摩駅から往路を戻り東京ふくおか会館着。

### 感想

富士山展望の名所で知られる所、天候も良く登山中最高の眺望であった。アプローチが長く大変であったが、なんとか無事完歩できました。

### 資料追加

小雲取山 1,937m 雲取奥多摩山荘 1,750m (営業、公衆電話あり) 五十人平ヘリポート 1,746m (防火帯) セツ石神社 高丸山 1,733m 千本ツツジ 1,704m 稲村尾根の下沢は巳ノ戸沢 鷹巣から巳ノ戸橋まで荒れていて、ヒルメシ食いのワクの名称あり。山荘 1,999 年に改装。ログハウス 二重窓 羽布団 水洗トイレ 以上。

## 北アルプス山行記

### 島々から徳本峠を越えて紅葉の涸沢へ

No. 11990 原 広 美



紅葉の涸沢にて 左から高島、西村信、西村俊、原

日 程  
2004 9/26 ～ 30

参加者 (4 名)

13541 高島拓生

13810 西村俊二

13520 西村信子

11990 原 広美

コース

一日目 島々～徳本峠～明神～横尾山荘

二日目 横尾～本谷橋～涸沢～北

穂高小屋

三日目 北穂高～涸沢～本谷橋～横尾～徳沢園

四日目 徳沢～上高地

かつての山岳人たちが、重いザックをしょって通ったであろう島々谷の道をいつかは私も歩いてみたいという長年の夢がかないました。

始めは二俣から南沢沿いを、秋だというのに新緑のような木々の間を気持ち良く歩きました。

しばらく歩くと、この体重&ザックで乗ったら折れてしまうのではないだろうか、不安になるような苔むした古い木の橋を十数か所も渡る。

3 時間ほど歩くと岩魚止小屋につ

くが、早々と小屋を閉めて誰もいない。庭先においしい山水がひいてあって、ぐぐっと一杯飲んでちょっとひと休み。

10分ほど休憩した後、さあ出発！

徳本峠まで頑張るがなかなか小屋が見えない。急なジグザグ道を歯を食いしばりながら雨にも負けずひたすら目標の峠まで登って行くとつかえ棒で支えられたクラシカルな山小屋が突然現れた

小屋の主人今川さんが雨の中を庭まで出て来て、「早く小屋に入って暖かいお茶を。ぬれたカッパも脱いでストーブで温まりなさい」と私たちを迎えてくれました。やさしい言葉に疲れが吹き飛んだ思いでした。

別れ際に6月にJAC北九州支部の皆さんがこの小屋に泊まったことを話すと覚えていてくださって、もう一度中へと言うことでしたが、本日は横尾泊まりなので急がなければならず別れを惜しみました。

明神側へ下山道を取ると真正面に明神岳や穂高の山々がずっしり構え

て私たちを歓迎しているようにも見えました。

二日目は日本一の涸沢の紅葉を求めて早朝から出発、屏風岩を左に見ながらすそ野を大きくまいて行くと本谷橋に出る。これから少しの傾斜を登っていくと右も左もナナカマドの見事な紅葉で思わず感嘆の声が出ました。涸沢小屋のテラスではたっぷり休憩してアルプスを満喫。

北穂沢の岩場を無事通過して、北穂山頂までの長い南稜線を登り詰める。皆さん初めての宿泊北穂高小屋です。ほかの山小屋と比べ小さな小屋ですが、ダイニングはクラシック音楽が流れおいしい豚の生姜焼きでスタミナをつけ、3,106mの山頂小屋を満喫しました。この日は中秋の名月、残念ながら臘月夜でしたが、他の登山客といろいろな話を交わすことが出来て有意義な夜でした。

初代の小山義治さんが本谷橋から担いで登ったと言う資材のひとつ、大きな‘梁’が改築された部屋に使ってありました。それを見上げたと

き、若いころ山小屋建設に情熱を傾けた話を思い出しました

三日目は奥穂高への縦走路を通る予定でしたが、岩がぬれて危険なため四人で相談した結果中止、奥穂に思いを残したまま来た道に戻りました。

最後の山小屋は氷壁の宿、徳沢園です。昔は牧場だったそうで、宿の前に大きな桂の木があるのですが、紅葉はまだのようでした。

四日間のうち半が秋雨にぬれながらの山行でしたが、登山者も少なく、夏山にはない静かなしっとりした雰囲気を楽しむことができた満足の日々山行でした。



北穂高岳から見る槍ガ岳

#### 中央分水嶺踏査進捗状況

### 分水嶺踏査山行は真っ最中！

**Bチームは 70%達成！**

北九州支部中央分水嶺踏査委員会 委員長

No. 13471 板倉健一

2004.12.31 現在踏査率

全 国 37.39 %

北九支部 40.0 %



昨年4月より開始した中央分水嶺踏査山行は、今や真っ最中です。1月中旬現在で、全体の約40%を踏査し

ています。

各チームの進捗状況に応じて、全体をスムーズに踏査するため、組織を変更しました。先日の踏査山行でCチームより人員を補助して欲しいとの申し出がありました。各チームのリーダーが集まって、CチームとDチームでCブロックを共同踏査することを決定しました。

今年は、2月の大山冬山合宿を中止して、その日程をCブロックの踏査山行にします。テント泊の山行を予定していますが、日帰りの山行の人も参加下さい。2月11日～13日で、Cブロックの残りを集中踏査します。これまでの踏査山行は、限られたメンバーが参加していますが、もっと多くのメンバーに参加して欲しいのです。地図を見ながら、磁石とGPSを携えて、未知の山を歩くのはとても興味深いことです。多くの山草や花に出逢います。



## 各ブロックの進捗状況

### Aブロック (仏峠～野道山～津々良岳～物見ヶ岳～木戸峠)

踏査区間の中で最も標高が高く、藪こぎが厳しく、困難な区間です。正月の雪が相当積もっていて、1、2月の踏査は、アプローチも含めて、極めて困難と思われる。更にこの区域は熊の生息地ですので、今年はより注意が必要です。

踏査率 5 0 %

### Bブロック (木戸峠～東鳳翔山～西鳳翔山～桂木山～大平峠～花尾山～大ヶ峠)

Bチームメンバーの精力的な活動により、最も踏査の進んでいる区間です。2月中旬までに踏査完了の見通しです。

踏査率 7 0 %

### Cブロック (大ヶ峠～大寧寺～一位ヶ岳～西市～京ヶ嶽～貴飯峠～鬼ヶ城～四王司山～壇ノ浦)

Cブロックは、最長区間です。区間の下半分(京ヶ嶽～壇ノ浦)は踏査しました。上半分(大ヶ峠～京ヶ嶽)を2月11日～13日の集中山行で踏査する予定です。

踏査率 4 0 %

### Dブロック (和布刈～風師山～戸の上山～足立山～貫山～平尾台)

1月下旬より踏査を開始する予定です。Dチームは、Cブロックの踏査もありますので、平行して踏査します。最終地点の平尾台は、3月中旬に予定しています。

踏査率 0 %

## ◇◇◇ 報 告 ・ お 知 ら せ な ど ◇◇◇

### 忘年パーティ盛大に終わる

平成 16 年度の忘年パーティが、12 月 11 日土曜日、午後 5 時から下関市駅前の下関シーモールで開催されました。今回は、初めて下関市で開催、参加者は福岡県内と山口県内から 47 人が参加し、新会員の余興が飛び出る程の盛り上がりを見せました。また、会場には、会員自慢の写真や版画、山のポスター、分水嶺踏査状況の地図など多数が飾られ、盛会裏の内に終了しました。

### 中央分水嶺踏査への協力

#### 資金カンパ 50, 100円

中央分水嶺踏査の会員は、マイカーのガソリン代やその他の出費を自分の負担で実施してきており、多大な犠牲を払っております。少しでも負担を軽くして、踏査が出来るようにとの目的で、北九だより 20 号で資金カンパを呼びかけましたところ、忘年パーティの会場や郵便などで、合計 50, 100 円の資金が集まりました。使い道については、分水嶺踏査委員長と各ブロックのリーダーで協議することになりました。会員の皆様、大変ありがとうございました。尚、

分水嶺踏査は、まだ続きますので、今からでもカンパはお受けいたします。よろしくお願いします。

### 本部のEメールアドレス変更

(これまで)

jac-info@jac.or.jp

(今後)

jac-room@jac.or.jp

日本山岳会のEメールアドレスが、セキュリティ向上のため変更になりました。これまで使用してきたアドレスは、自動アドレス取得などによって、スパムメールやウィルスメールが連日多数受信されていたそうです。これらの不法メール対策のため

jac-room@jac.or.jp

にアドレス変更したものです。

なお、会報「山」への原稿は、

jac-kaiho@jac.or.jp

### 会員の現況

(H16.4.1 ～ H17.1.11)

本部会員 85 人

支部会員 76 人

合計 161 人

### 新会員

〈本部会員〉

No. 13514 橋本 美和 福岡市  
(首都圏所属からの転居)

No. 14045 池田 暁彦 門司区

No. 14046 高城季美子 小倉北区  
No. 14051 三木 靖子 下関市  
No. 14079 内藤 正美 山口市  
No. 14080 原野 幸雄 山口市  
No. 14081 塩屋 薫 下関市  
(支部会員)

No. 北九392 助田 陽一 北海道  
(北海道支部所属の正会員No. 12995 ですが、当支部の会友として加入されました)

### 平成17年度通常総会決まる

日本山岳会北九州支部の第6回通常総会が、次の通り決まりました。

詳細については、次号でお知らせいたしますので、会員諸氏は日程を忘れないよう、カレンダーにメモしておいて下さい。

日程 平成 17 年 4 月 16 日 (土)  
午後 2 時頃から

場所 八幡東区 大谷会館

なお、総会のあと、引き続いて懇親会を予定しております。



## 山行計画のご案内

### 1～3月の山行

2月の伯耆大山・冬山合宿は中止します。冬山合宿として、2月11日～13日、Cブロックの分水嶺踏査をテント泊（日帰りも可）で行います。（板倉）

### 分水嶺踏査登山

#### Aブロック

1月5日（水）ピーク 572m（田代川）～ピーク 575m（津々良林道出会い）（地図・大原湖）

1月9日（日）ピーク 575m（津々良林道出会い）～津々良ヶ岳（地図・大原湖）

1月12日（水）津々良ヶ岳～大土路（地図・大原湖）

1月16日（日）大土路～ピーク 676m（地図・大原湖）

1月22日（土）ピーク 676m～ピーク 818m（地図・大原湖）

以上の踏査を予定していますが、現地は積雪のため、車が全く入れずしばらく様子を見ます。

#### 踏査済み

木戸峠～物見ヶ岳

物見ヶ岳～火の迫川（12月19日）

仏峠～下深山手前のピーク 818m

野道山～三つヶ峰の未踏査の部分は、最後にAグループの皆さんと仕上げをしたいと思います。

#### 申し込み

C L 原 広美 0832-45-5490

S L 細川 功 0832-45-3362

S L 横山 洋子 0832-53-3031

S L 中村 昭彦 0832-54-0317

#### Bブロック

1月16日（日）W 619 大平峠(270m)～△ 350.5m～桂木山(701.6m)～W 616 山中峠(250m)

1月23日（日）W 616 山中峠(250m)～鯨ヶ岳(615.9m)～笹目峠(260m)～△ 346.9m～W 612 雲雀峠(250m)

1月30日（日）W 602 油ノ峠～地蔵峠(530m)～東鳳凰山(734.2m)～ショウゲン山(△ 710.8)～W 598 板堂峠

#### 踏査済み

W 627 大ヶ峠～花尾山～W 625 荒ヶ峠（10月24日）

W 592 木戸峠～大峠～W 594 龍門岳（11月18日）

W 598 板堂峠～狼山～W 596 八丁峠（11月21日）

W 625 荒ヶ峠～大滝～天井山～大水峠～権現山～大平峠（11月28日）

W 596 八丁峠～R 262(△ 454.4m)～W 594 龍門岳（12月3日）

W 612 雲雀峠～高羽山～笹ヶ原～W 609 林道（12月14日）

W 609 林道～男岳分岐～△ 621.3m～桂坂峠（12月19日）

W 602 油ノ峠～西鳳凰山～明敷峠～桂坂峠（12月23日）

#### 申し込み

C L 西村 信子 0930-33-4618

S L 日向 祥剛 093-592-0275

S L 高畠 拓生 0948-53-1740

S L 片山 俊昭 0930-25-1719

※参加の方でJR門司港駅6時33分着の利用者がいない場合は、下関集合場所に6時30分まで集合し、出発します。尚、天候により、日程は変更することがあります。

#### Cブロック

2月11日（金）～13日（日）（CチームとDチーム共同）

大ヶ峠～大寧寺～一位ヶ岳～西市～京ヶ嶽

冬山合宿を兼ねてテント泊予定（日帰りも可）

#### 踏査済み

京ヶ嶽～貴飯峠～鬼ヶ城～四王司山～壇ノ浦

#### 申し込み

Cチーム 楠田 和彦 093-613-3358

大城戸昌敏 093-612-7476

Dチーム 大楠 益弘 090-3196-8939

委員長 板倉 健一 093-321-1038

#### Dブロック

1月～3月予定。

○ 和布刈～古城山～砂利山(246m)～風師山(362m)

○ 風師山～七つ石峠～鹿喰峠～戸ノ上山(517m)

○ 戸ノ上山～足立山(597m)～湯川

○ 湯川～貫山山麓

○ 貫山山麓～貫山(712m)～平尾台吹上峠

参加申し込み先：大楠CL

(090-3196-8939)

## サロン ルーム



1月のサロンは、26日（水）

2月のサロンは、23日（水）

時間 午後6時30分から

場所 小倉北区魚町「コールド」

（魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m）

費用 3,000円前後（ワリカン制です）

## 編集後記

○皆様、今年もお手柔らかに、よろしくお願い致します。まずは、年頭にあたり、この「北九だより」が出来るまでの仕組みをご披露いたします。発行は2カ月に1回。本当は毎月が一番ですが、予算がありませんので。その為にも、会員の皆様、会費をきちんと納めて下さいませ。原稿が来ますと、片っ端からパソコンに打ち込んでディスクにため込んでいき、編集作業にかかります。編集だけは私の独断と偏見でやっております。編集が終わり紙面が出来上がるとそれをコンビニで、役員の数だけコピーして役員会に持参し、全員

に配布。誤字、脱字、各人の原稿、記事の内容などを厳重に審査校正していただきます。そして完全に出来上がった「北九だより」の版下を西村信子会員に手渡し、それを関口事務局長が受け取り小倉の印刷会社へ。出来上がれば、数人がかりで二つ折り、封筒詰め、宛名貼り、投函・・・ということになります。苦勞して制作した北九だより、隅々まで読んで下さいネ。

伊藤Q

○山の原稿は

事務局（関口事務局長）又は

〒826-0032 田川市西平松 11-8

伊藤久次郎までお送り下さい。

Eメールアドレスは

nkchb785@ybb.ne.jp です。

電話・Fax は、0947-42-2772

（IP 電話 050-1499-2772）